

＜進捗管理シート＞

第3期 大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の令和7年度実施内容及び令和8年度実施予定
＜ 基本目標3：まち全体のブランド化～誰からも選ばれるまち～ ＞

基本的な方向性：まちの資源の価値向上と情報発信の強化

まちの様々な資源を磨き、信頼・誇り・情報発信の向上に結び付け、総合的なまちのブランド力をとおして、誰からも「選ばれるまち」を目指します。

(事業費はR7が実績額、R8が予算額：千円)

総合戦略の施策とその方向	令和7年度実施内容に対する評価	事業費	担当課
施策(1)：新たな賑わい交流拠点の創出 方向 賑わい交流拠点施設の整備においては、基本コンセプトとして「千本桜を千年先へ～桜が繋ぐ交流とスポーツの賑わいテラス～」を掲げ、まちづくりの大切な視点「心身と社会が健康で幸福な状態が継続するWell-being なまちづくり」を推進する。官民連携手法を導入した施設整備・管理運営を検討し、具現化を図る。	① 賑わい交流拠点施設の整備 【令和7年度】 スポーツを中心とした新たな賑わい空間・町民の健康増進の場・観光スポット形成等を目的に、官民連携手法を導入した施設整備及び維持管理運営事業を実施する事業者の募集・選定を行い、事業者との間で契約を締結した。 また、令和6年度に引き続き盛土造成工事等を行い、概ね予定どおりの完了となった。 【令和8年度】 施設整備・維持管理運営事業者との連携・協働により、「スポーツの力によるWell-being なまちづくり」の拠点として、より魅力ある施設の整備と維持管理運営体制の構築を進める。 また、施設利用環境の更なる整備のため、施設内の道路改良工事等を行う。 【目標指標】 賑わい交流拠点施設利用者数 R7 整備中⇒ R11 30,000人以上/年	R7年度 364,887 R8年度 1,219,400	地域整備課
施策(2)：スポーツを活用したWell-being なまちづくりの展開 方向 ① おおがわら千本桜スポーツパークを中心に、気軽に楽しく運動ができ健康づくりにつながる「Well-being なまちづくり」	① スポーツを通じた交流と賑わいの場の創出 【令和7年度】 「スポーツを活用したWell-being なまちづくり」の推進及び誰もが気軽にスポーツを楽しみながら交流できる環境の創出に向けた取組として、おおがわら千本桜スポーツパークや白石川河川敷を会場に、ティラノサウルスレースやMTBレース、SUP体験等のスポーツイベントを実施し、町内外から前年比で約300%増となる約550人が参加した。 OGAWARA MTB S-PARK関連事業としては、MTBスクールのイベントや、一般社団法人	R7年度 28,607	スポーツまちづくり推進課

を推進するとともに、一目千本桜ブランド化やみやぎ仙南サイクルツーリズム推進会議と連動し、広域的な観光やサイクリングの拠点化により、スポーツを通じた交流の場の創出を図る。 ② スポーツを通じて、子どもから高齢者までのあらゆる世代の生きがいと交流、健康づくりを促進し、生涯を通じてスポーツを親しむことができる環境づくりを広げる。	人日本キッズバイク安全普及推進協会や大河原警察署と連携し補助輪外し教室や自転車交通安全講習会を合計4回実施し、約150人が参加した。また、MTB S-PARKへの施設来場者数は昨年同様であったが、来場者の滞在時間が増加傾向にあることから、レンタルバイク利用収入が前年比で約120%増となった。 さらに、パークゴルフ場においては、指定管理者や関係機関と連携し、各種大会の開催や体験会を実施するなど利用促進に努めた。 【令和8年度】 おおがわら千本桜スポーツパークや総合体育館を中心に、魅力あるスポーツ事業の実施に努めるとともに、スポーツ施設の指定管理者と連携を図りながら、スポーツを通じた交流と賑わいの場の創出に努める。 【目標指標】 おおがわら千本桜スポーツパーク・パークゴルフ場年間延利用者数 R7 11,527人⇒R11 20,000人以上 MTB パーク S-PARK 年間延利用者数 R7 6,500人⇒R11 7,000人以上 上記以外の町スポーツ施設利用者数 R7 106,526人⇒R11 130,000人以上	R8年度 26,716	
	② 生涯スポーツの振興 【令和7年度】 子どもから高齢者まで、年齢に関係なく、する人、見る人、支える人が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりに努め、Well-being なまちづくりの推進を図るため、新規事業としてWBCおおがわら事業を実施した。事業の一つとして職員等が講師となりニューススポーツ体験会や各種スポーツ教室等を実施した。 また、ホームタウンパートナーとなっている女子バレーボールクラブチーム「リガーレ仙台」のホームゲーム合計6試合に、町内在住、在勤者など約590名を無料招待したほか、プロバスケットボールチーム「仙台89ers」と連携し町内小中学生を対象としたバスケットボール教室を実施し、約40名が参加した。 そのほか、スポーツに親しみながら心身の健康とコミュニティ形成の促進を図るため、行政区が実施するスポーツ・レクリエーション事業を促進するため、19行政区（参加者合計約870名）に補助金を交付した。 【令和8年度】	R7年度 1,979 R8年度	スポーツまちづくり推進課

	町民がスポーツに親しみやすい環境を整えることにより、あらゆる世代の生きがいと交流、健康づくり、地域コミュニティの促進につなげられるよう、行政区を巻き込んだWB Cおおがわら事業を展開する。 【目標指標】各種スポーツイベントの開催 R7 4回 ⇒ R11 6回以上	4,000	
施策(3)：一目千本桜の情報発信やプロモーションの強化 方向 ① 桜の樹木医による診断、指導のもと樹勢維持を進め、ひこばえ育成による更新や新品種「大河原紅桜」「おおがわら千年桜」の植樹を進め、同時に新たな桜の名所づくりを検討し、未来に桜のまちを引き継ぎます。また、桜の保全・保護に携わる町民サポーターによる自主的な活動の促進を検討する。 ② 一目千本桜の情報発信やプロモーションを地域連携により強化し、国内外に魅力の認知度を高めてブランド化につなげるとともに、桜をきっかけとして通年観光の定着を目指す。観光客へのおもてなしを地域全体で対応し、町のイメージアップに結び付けるとともに、桜満開時はオーバーツーリズムとなることから渋滞緩和策等を関係機関と調整する。	① 一目千本桜の保全・保護 【令和7年度】 観光資源である一目千本桜が植樹100年を超え、老木であるため樹木医指導のもと、保護管理を実施した。 【令和8年度】 観光資源である一目千本桜が植樹100年を超え、老木であるため樹木医指導のもと、保護管理を実施する。新たな桜の名所づくりにおいて、開花時期の異なる複数品種の桜により、1か月程度にわたり桜の花を鑑賞できるよう複数品種苗木育成業務を開始した。 【目標指標】白石川堤の桜樹本数（大河原町分） R7 934本 ⇒ R11 1,000本以上	R7年度 22,346 R8年度 26,220	商工観光課
	② 一目千本桜の情報発信やプロモーションの強化 【令和7年度】 一目千本桜は国内外に向けて認知を広げてきたが、令和7年度は県内や町民に向けて一目千本桜の貴重性や四季折々の魅力を認識してもらう事業を定例イベントに組み込みながら実施した。 【令和8年度】 一目千本桜は国内外に向けて認知を広げてきたが、令和8年度は「一目千本桜」の風景を形作った、高山開治郎翁の生誕150年を機にあらためて開治郎翁の功績を紹介し、あわせて一目千本桜の歴史と未来に向けての取り組みを伝える機会として記念式典を開催し、町民のシビックプライドの醸成と桜を守り継ぐ機運の醸成を図る。 【目標指標】桜まつり入込客数 R7 22万人 ⇒ R11 30万人以上	R7年度 18,708 R8年度 17,757	商工観光課
施策(4)：地場産品などの「食」を中心とした高付加価値化 方向 ① 地域に適した農作物の生産を推進するとともに、梅を中心に	① 特産品づくりと6次産業化支援 【令和7年度】 大河原町の町木である「梅」などの特産品や「たまねぎ」「枝豆」「ねぎ」「ばれいしょ」「キャベツ」「ブロッコリー」などの重点振興作物について、町内飲食店や加工業者に町内産農産物を使用していただけるよう、梅まつりや各イベントにおいてPRを行った。	R7年度 0	農政課

した大河原らしい特産品の6次産業化による、高付加価値化、ブランド化を目指します。加工技術を持たない農業者に対しては、企業との連携を調整・支援する。 ② 生産者や関係機関、行政が連携して、様々な資源の掘り起こしや磨き上げを行い、商品開発や特産品づくりなどの高付加価値化を目指します。	【令和8年度】 前年度と同様に「梅」などの特産品や重点支援作物を各イベントにおいて、飲食店や加工業者にPRを行う。 【目標指標】6次産業化の商品数 R7 0件 ⇒ R11 2件以上 ② 地域資源の発掘とブランド化の推進 【令和7年度】 梅やゆずなど、町の特産品を活かしながら、新たな商品開発を（一社）大河原町観光物産協会で実施した。 【令和8年度】 梅やゆずなど、町の特産品を活かしながら、新たな商品開発を（一社）大河原町観光物産協会で実施する。 【目標指標】新たな商品開発 R7 3件 ⇒ R11 6件以上	R8年度 0 R7年度 0 (観光物産協会補助金を含む) R8年度 0	商工観光課
施策(5):人口を維持する仕組みづくりを推進 方向 ① 結婚につながる機会を増やしていくとともに、結婚後の妊娠・出産・子育て等安心感の持てる社会環境づくりを促進する。 移住者に選ばれるための魅力づくり、情報発信に努め、受入体制の充実を図るとともに、定住者に暮らしやすさが実感できる「Well-being なまちづくり」を進める。 ② 女性が不安なく結婚、出産、働きながら子育て、または再就職できるよう、家庭内、職場内でも男女共同参画の趣旨を普及し、社会全体で少子化が緩和できるよう促進する。	① 結婚促進、移住・定住支援等の推進 【令和7年度】 婚活イベントを2回実施した結果4件のカップルが成立、7年度から実施した県内の結婚支援センターの入会登録料を助成する結婚活動支援助成金は3件の申請、交付を行い、結婚につながる機会の増加を図った。 県外からの移住者に選ばれるための情報発信を行うとともに、移住体験希望者への町案内、宮城県への移住希望者対応として「みやぎ移住・交流フェア(東京都)」に参加、東京圏からの移住者に対する移住支援金の交付等移住支援の取組を進めた結果、令和7年度は移住支援金を2件交付し、移住者の数を着実に増やしている。 【令和8年度】 引き続き婚活イベントの年2回の実施を予定、結婚活動支援助成金は制度の周知徹底し、結婚につながる機会増加を図っていく。 移住定住支援では引き続き「みやぎ移住・交流フェア（東京都）」に参加することに加え、町単独で「ふるさと納税・移住定住PRイベント（大阪府）」の開催を予定しており、移住者に選ばれるための情報発信を強化し、移住者増加につなげる。	R7年度 2,229 R8年度 3,480	政策企画課

また、子育て支援に力を入れ、子育てと家庭・仕事が両立できるまちとして、女性に選ばれるまちのイメージ（ブランド）を検討する。	【目標指標】結婚支援イベントカップル成立件数 R7 4件/回 ⇒ R11 5件以上/回 移住支援金支給者 R7 4件 ⇒ R11 延べ5件以上		
	② 男女共同参画の推進による女性政策（少子化対策） 【令和7年度】 令和7年1月策定「大河原町男女共同参画基本計画」に基づき、関係施策の取組を進めた。男女共同参画の理解普及として、啓発チラシを全戸配布、町内事業所に配布した。また、役場職員対象に男女共同参画研修会を開催し、男女共同参画の意識醸成を図った。 【令和8年度】 「大河原町男女共同参画基本計画」に基づく施策の評価等を行う「大河原町男女共同参画推進審議会」を開催する(年1回)。昨年に引き続き、男女共同参画の理解普及として啓発チラシの全戸配布、町内事業所への配布を行うほか、職員対象の男女共同参画研修会を開催する(1回)。	R7年度 60 R8年度 204	政策企画課
	【目標指標】1年間の出生数 R7 105人（令和7年中）⇒ R11 150人以上（令和10年中）		
施策(6)：企業誘致による「働く場」の充実 方向 川根工業団地の企業誘致用地の整備を進め、進出企業の事業拡大と地域雇用を促進します。また、町の支援制度の利用促進を進める。	① 企業進出のための環境整備 【令和7年度】 川根工業団地における分譲用地の造成・拡大についてまとめた川根工業団地用地拡張基本計画をもとに、土地利用の転換を含め整備を進める。 令和7年度においては、学校用地代替となる中の倉用地買収を行い、設計・造成を進めた。 【令和8年度】 川根工業団地における分譲用地の造成・拡大についてまとめた川根工業団地用地拡張基本計画をもとに、土地利用の転換を含め整備を進める。 令和8年度においては、中の倉地区の造成工事を行い、宮城県との用地交換を行う。	R7年度 134,130 R8年度 461,050	商工観光課
	【目標指標】川根工業団地拡張後の企業誘致 R7 0件 ⇒ R11 1件		